

Shalom-network

発行 NPO法人シャローム事務局 〒960-1241 福島県福島市松川町字東原17-3
TEL/FAX024-567-5322
http://nposhalom.net/ info@nposhalom.net 発行責任者 大竹静子

マザー・テレサと千葉監督、シャロームとの出会い 〜マザー・テレサ映画祭 8/21〜27

私たちは千葉監督の映像を通してマザーに出会った

私たちの多くがマザー・テレサを知ったのは、千葉監督が1979年に発表した「マザー・テレサとその世界」によってではないか思います。それからすでに30年の月日が過ぎてしまいました。その映像は、当時のインドの街で、荒廃したラム化した道端に行き倒れとなった人々とそれらの人々を世話する修道女たち、その先頭に立つ一人の老修道女、マザー・テレサの姿を映し出します。その姿と生き方に感動した記憶が鮮明によみがえります。

無条件に受け入れ大切に接する態度、そのかけがえのない命に今できることを通して精一杯関わろうとする姿、それが、一人一人の心を繋ぎ、死後もなおその意思は引き継がれ世界に広がり生き続けています。シャロームの目指す活動もこうありたいと願っています。

千葉監督の作品を中心に構成されたマザー・テレサ生誕百年を記念する映画祭が、全国各地で有志により開催されています。千葉監督の最新作生誕百年記念作品「マザー・テレサと生きる」を中心に構成され、千葉監督作品3本、外国作品4本が連日入替で上映されます。

福島においては、シャロームが主催で、福島フォーラムの協力により開催されます。マザー・テレサの誕生日8月26日を挟み21日から27日までの一週間の開催となります。

21日には、第80回教養講座「地元学を考える」の講師として千葉監督に記念講

演をお願いしています。マザー・テレサの姿を通して「人間とは何か」そして「命とは何か」を私たちに問いかけ続ける千葉監督の世界、福島に生きる私たちの先輩の姿からその生き方を学びたいと思います。

マザー・テレサのドキュメンタリー映画では世界的評価を受けてきている千葉監督は、シャロームの会員にもなつて頂いております。ぜひともシャロームの手で今回のマザー・テレサ映画祭を多くの市民の方々に見て頂き、ぜひとも成功させていきたいと願っています。会員のみならずのご協力をよろしく願います。シャローム！

代表 大竹静子



夏のメモ帳

連日の猛暑が続く。記録的な猛暑、集中豪雨、竜巻まで発生している。異常気象と簡単に決めつけて良いものか。日本に梅雨がなくなつてきているのでは？ 熱帯地方の昆虫が輸入され、それが野生化して生息を始めています。日本の在来種が絶滅の危機に瀕している。日本がそれらの昆虫にとつて生息可能な環境になつてきている事実が問題なのではないかと思う。思えば、4月末に雪が降り、7月に入つてからは連日の猛暑。私たちの生活において、季節感を失いつつあるように、自然界においても日本の四季が崩れてきているのではないだろうか。自分の感覚に忠実になることで、さまざまな変化が見えてくる。私たちが生きている今をすでに体験した人は世の中に一人もいない。今を生きる自分のこれまでの経験、先人の知恵、知識、それをベースにして自分たちの現状をどう判断するか。謙虚に物事を見ることのできる自分を見失わないようにしたいものである。(T.O)

石彫ワークショップ開催

7月19日 ふくしまスカイパーク

7月19日、メキシコよりお越しの芸術家、保住 将文氏の指導・監督により、毎年恒例の石彫ワークショップがスカイパークで開催された。

これは2007年より毎年シャロームの主催で開催されてきた行事であり、スカイパークに設置された石彫作品に、参加者が思い思いの絵柄を彫りこみ、航空公園のシンボルとしよう、という試みのもとにおこなわれてきた活動である。作品は、外縁部の竜の頭部、そして、その後方に渦巻状に連なる大きさ一・五mほどの石10個程からなる。竜の頭部は保住氏自らが製作したもので、高さ2メートル以上の大掛かりなものとなっている。さすがにプロの作品といった仕上がりで、頭部は隔々

までグラインダーで磨かれ、滑らかな曲線による輪郭と生き生きとした風貌の表情には今にも動き出しそうな迫力がある。

そもそもこの作品が竜を形作っているのは、企画段階で子供たちによって創作された物語による。蒼龍伝説と名付けられたこの物語は、「あるとき竜の卵が発掘されるが、運搬中にトラックから転がり落ちてしまう。見つけた少年がこれを孵化させ、ご飯を食べさせ、育てていくうちに絆が芽生える。やがて途方もなく大きく成長した竜は少年のもとを巣立ち、旅立っていく。」という筋立てとなっている。作品は尻尾の部分にあたる先端の石のほうからこのストーリーを場面ごとに順序通りなぞって壁画調に彫絵が描か

れ、竜の頭部の手前の石で完結するという構成になっている。子供や障がい者、お年寄りなど、参加者はこれを石ごとに、つまり場面ごとに分かれて担当することになる。当然絵の調子も場面ごとにそれぞれ大きく異なるが、この統一感のない多様な絵の集合体という有りかたが、様々な人の参加による作品としての味わいを出している。

今回のワークショップは3年目ということもあり、開始した時点でこれまでに参加した人々の手によって既にストーリーの八割方が彫りつけられている状態であった。今回はすでに完成した絵柄を綺麗にする作業であったため、そこまで大変な作業ではなかったものの、炎天下で蚤を打ち続けるのはなかなか根気のいる作業であった。昼食時には保住氏の手による本場料理のタコスが振る舞われた。最後に皆

で集まって参加者の方々に一言ずつ感想をいただいた。介護福祉学校より参加の学生の方々も、障がいのある参加者の方もそのご家族も、皆それぞれ自ら作品に触れ、制作するという今回の貴重な体験について大変な満足感が感じられる内容だった。

作品としてはまだ何も描かれていない石も、輪郭のみ描かれた石も残っている。来年も引き続き開催する予定なので、まだ参加されたことのない方も、またこれまでに参加された方も、石と触れ合うことの貴重な体験に是非参加をお勧めしたい。

(赤間亮太)



第79回地元学を考える

『メキシコと日本』比較文化論

講師 保住将文氏(彫刻家)

7月18日(日)、第79回地元学が開催されました。講師は現在メキシコを中心に活躍している彫刻家の保住将文氏です。メキシコと日本での製作活動、学生たちとの交流の中で感じられている体験を話していただきました。講演は、保住氏がメキシコでの活動の様子を撮影した写真を見ながらコメントをするという形で進められました。保住氏と生徒たちの笑顔の様子が映されていて、とても楽しい雰囲気の写真が多くありました。日本とメキシコの違いの一つに、人の生死観の違いがあるという話がありました。メキシコ人の風習として、日本でいう盆の季節に先祖の骸骨を飾るといったものが

あるそうです。日本では考えられないその風習に、自分は少しぞつとしましたが、メキシコでは普通のことだといえます。メキシコでは生と死が近いところにあるのだと感じました。その後メキシコの巨石文明であるオルメカ文明やマヤ文明についての説明がありました。保住氏はもともとエジプトやマヤなどの巨石文明に興味があり、いつか行こうと思っていたそうです。人跡未踏の地獄のような場所





(玉川 秀典)

に巨大な石頭があると
いう風景を想像すると
とてもロマンがあると
感じました。
「生きるとは死ぬこ
とである」という言葉
はとて難しく感じま
した。これは投げやり
な意味ではなく、今を
大事にするという意味
だといえます。今そこ
にあるのは過去でも未
来でもなく「今」だと
保住氏は語りました。
深く考えさせられる言
葉だと感じました。
なかなか難しく、理
解できない部分も多く
ありましたが、有意義
な時間を過ごすことが
できました。自分はず
まく表現できないので
すが、今回の保住氏の
話をもとに自分も生死
観について少し考えて
みたいと思いました。

ひまわり祭を終えて 8月8日・大波城址

8月8日、大波地区
の大波城址でひまわり
祭が開催された。ひま
わりは景観作物兼食用
作物として大波上組集
落営農倶楽部によつて
大波城址前の段々畑に
毎年5月末日〜6月に
植えられているもので、
このひまわり祭もひま
わりの植栽を始めた3
年前から併せて行われ
てきたイベントである。
イベントでは、参加者
がそれぞれひまわりの
写真を撮ったり、絵を
描いたりしてコンテス
トに出展する。9月19
日にコンテストの審査
が行われ、受賞した人
には景品が手渡される
ことになっている。



5月にみんなで蒔いた種が

今年も天候不順で大
雨も多く、生育も通年
よりは遅かったとのこ
とだが、それでも当日
は殆どのひまわりが大
きな花を咲かせており、
国道115号から城址
のほうを見上げると素
晴らしい景色が広がっ
ていた。テントには去
年の受賞作品である写
真や絵画が展示されて
いた。子供ながらの味
のある絵から大人の手
による見事なものまで、
さまざまなものがあつ
た。10時より営農倶楽
部理事の加藤さんの司
会で、代表の栗原さん
よりこれまでの営農倶
楽部の活動の経緯やイ
ベントの説明をされた。
営農倶楽部の他にも、
JAや県、地域の小学校
の先生など、集まった
各関係団体の方もひま
わり祭開催について次々
とお祝いの言葉をのべ
た。当シャローム代表



こんなに見事に咲きました

大竹も今回の大波さん
との関わりを皆さんに
お話しした。いよいよ
開催となる頃には20名
ほどの参加者が集まり、
思い思いに写真を撮つ
たり絵を描いたりし始
めた。参加者の中には
5月の種蒔きのときに
ボランティアとして手
伝いに訪れた方も多く、
自分たちが蒔いた種が
大きく育ち、丘一面に
広がる景色には感慨も
ひとしおだったろう。
やはりお子さん連れの
方が多く、子供たちは
テントの下に置かれた
長テーブルに画用紙を
広げて自由に絵を描い
ていた。時間が経つほ
どに参加者も増え続け、
テレビ局や新聞社の取



クレヨンや絵の具で絵を描きました

材の方も訪れていた。
ここで加藤さんより再
びお話があつた。子供
たちのため、ひまわり
畑の中に“宝”を幾つ
か隠したという。これ
を見つけて戻れば景品
と交換してもらえると
いうことで、子供たち
は暑さにも負けず、張
り切つて畑の中へと駆
け出して行つた。4時
になり、イベントも終
わりに近づいたが、参
加者は入れ替わり立ち
替わり訪れていたため
減ることはなかった。
提出された絵画も相当
な数になつていたが、
早くも受賞が見込まれ
るような見事な作品も
見られた。このように
美しい景色を見せてく



おいしいドレッシングになります

れたひまわりも、ただ
我々の目を楽しませて
くれるだけでは終わら
ない。9月12日には種
の収穫が行われ、そこ
から油が抽出されるこ
とになる。ひまわり油
は加工され、大波上組
集落営農倶楽部オリジ
ナルの美味しいドレッ
シングに加工される。
興味のある方は、夢工
房でも販売されている
ので、どうぞご賞味い
ただきたいと思う。ま
た、9月12日の収穫祭
は、例年人手が不足し
ているので、体力に自
信のある方で、ボラン
ティアとして参加を希
望される方がいたら是非
ご連絡いただきたい。
(赤間 亮太)

～ 夢工房より～

ムシムシと暑い日が続きますが皆様いかがお過ごしでしょうか？まちなか夢工房ではカキ氷に冷たいデザートが大人気です。職人手作りのババロアやロールケーキ等、毎回種類が替わり、冷蔵ショーケース内でこっそりと販売しています。

「今回のみ」の数量限定品がほとんどですので、見つけたときはお早めどうぞ

今回は、福島養護学校、安積克洋さんより、職場体験の感想をいただいたので紹介致します。

まちなか夢工房の皆様へ

拝啓 向夏の候となりました。

まちなか夢工房の皆さんはいかがお過ごしでしょうか。私は、暑さに負けず学校生活を頑張っています。さて、5月31日から6月16日までの現場実習では大変お世話になりました。まちなか夢工房で学んだ事は、コミュニケーションの大切さです。実習をして楽しかったことはパンの成型と種まきが楽しかったです。大変だった事は、シュガーラスク作りでの砂糖の入れ加減が難しかったです。今回の実習で学んだことを次の実習に活かしていきたいと思ひます。

まだまだ暑い日が続きますが、くれぐれもお体に気を付けて過ごしてください。

かんたんですがまずはお礼まで。

6月29日 福島養護学校 安積克洋

活動報告 7月15日～8月15日

- 7月14日 福祉研究会
- 7月15日 門前市
- 7月18日 第78回地元学
「メキシコと日本 彫刻その比較文化論」
メキシコ国チャパス州立大学准教授 保住将文氏
- 7月19日 石彫りワークショップ体験「蒼龍伝説を彫る」
福島市農道空港スカイパーク内 指導 保住将文氏
- 7月24日 第3回未来館フェスティバル会議
- 8月8日 大波地区ひまわり祭
- 8月11日 福祉研究会
こどもフェスティバル実行委員会
- 8月12日 ほおずき市

活動予定 8月16日～9月30日

- 8月21日 第80回地元学 千葉茂樹氏
～27日 マザー・テレサ映画祭
- 9月4日 未来館フェスティバル
- 9月7日 福祉研究会
- 9月12日 大波収穫祭
- 9月15日 門前市
- 9月19日 大波フォト・絵画コンテスト
- 9月25日 第81回地元学 花との出会い 阿曾十喜子氏

編集後記 大波営農クラブのひまわりドレッシングの販売が好調。香料等が入っていない素朴な香りと、作っている農家の生真面目な顔が浮かぶ味で市内は元より県外にまで紹介され、すでに在庫は数えるばかり。まじめに作った良い物は評価される。(M.S)

生誕100周年記念

マザー・テレサ映画祭

開催せまる

マザー・テレサ生誕100周年記念として、福島フォーラムにて映画祭が開催されます。シャロームでは、当法人の会員であり、日本人として初めて彼女の撮影を許された千葉茂樹監督を映画祭の初日にお招きし、第80回教養講座「地元学を考える」の記念講演としてお話を頂戴いたします。また、今回は千葉茂樹監督の初公開作品「マザー・テレサと生きる」が上映されます。映画祭も一週間開催いたしますので、是非この機会に会員の皆様も、マザー・テレサの世界に触れていただければと思います。

日時：2010年8月21日(土)～8月27日(金)

会場：フォーラム福島

上映作品

- A) マザー・テレサと生きる
- B) 生命それは愛/マザー・テレサとその世界
- C) 母なる事のなる事の由来
- D) マザー・テレサの遺言
- E) 母なるひとの言葉

上映予定：

- 21日(土) 13:00～
第80回 教養講座「地元学を考える」
1. 千葉茂樹監督 記念講演
2. 特別上映
「すばらしいことを神さまのために」
本邦初公開！～入場無料
- 14:30～A) 「マザー・テレサと生きる」
- 22日(日) 10:30～
A) 「マザー・テレサと生きる」入替
B) 「生命それは愛」
B) 「マザー・テレサとその世界」(2本立て)
- 23日(月) 10:30～
A) 「マザー・テレサと生きる」入替
C) 「母なることの由来」
- 24日(火) 10:30～
A) 「マザー・テレサと生きる」入替
D) 「マザー・テレサの遺言」
19:00～D) 「マザー・テレサの遺言」
- 25日(水) 10:30～
A) 「マザー・テレサと生きる」入替
B) 「生命それは愛」
B) 「マザー・テレサとその世界」(2本立て)
19:00～B) 「マザー・テレサとその世界」
- 26日(木) 10:30～
A) 「マザー・テレサと生きる」 入替
C) 「母なることの由来」
19:00～
C) 「母なることの由来」
- 27日(金) 10:30～
A) 「マザー・テレサと生きる」 入替
E) 「母なるひとの言葉」
19:00～E) 「母なるひとの言葉」

料金：前売券 1回券900円 2回券1600円

当日券 一般1200円

学生・シニア・障がい者1000円